



平成28年度 中央区地域活動協議会活性化セミナー
 第3回 地域の輪を広げましょう！
避難所開設・運営訓練
大規模災害のとき、指定避難所は地域の災害対策本部となり、避難所運営委員会が組織されます。

日時 平成28年 12月6日 火 19時～21時
 申込不要 参加無料
 参加費には防災食、防災グッズをプレゼント！

第1部 各地域の避難所開設・運営訓練の紹介

マンションや企業と連携した訓練
 児童の安全に配慮した引き渡し訓練
 複数の地域に力をあわせて避難所を運営する訓練

第2部 意見交換会
 そこが知りたい！「訓練の工夫」
 今後に活かす「訓練のアイデア」

★どなたでもお気軽にご参加ください★
 主催/中央区まちづくりセンター、大阪市中央区役所
 お問い合わせ/06 (4708) 8183 chubu-sporteff@net.on.na.jp

平成 28 年度中央区地域活動協議会活性化セミナー
第 3 回 地域の輪を広げましょう！
～避難所開設・運営訓練に学ぶ～
 (記録)

平成 28 年 12 月 6 日 (火) 主催/中央区まちづくりセンター・大阪市中央区役所

中央区まちづくりセンター主催のセミナーの第3弾として、「平成28年度 中央区地域活動協議会活性化セミナー～地域の輪を広げましょう！～(第3回)」を開催しました。

最近では熊本の地震など、災害はいつ、どこで起こるのかわかりません。区内、各地域では、高層化に伴う停電時の階段の昇り降りなど近年急増しているマンション内での訓練を取り入れるなど、地域事情に応じた多様な内容で、毎年工夫を積み重ねて訓練に取り組まれています。そこで、各地域の工夫を共有し、来年度の企画の参考にしていただければと、第一部では、各地域の避難所開設・運営訓練の紹介、第二部では、紹介いただいた事例をもとに、会場からも質問を募って意見交換会を行いました。地域役員の方など41名の参加があり、地域を超えた情報交換や交流の機会、活動の広がりのきっかけとなりました。

当日の各地域からの説明と意見交換の概要をまとめましたので、以下のとおり、ご紹介します。

第1部 事例紹介

1. 各ブロックに一時立寄所を設置！

「高津避難所開設訓練」高津地域活動協議会 会長 山口 滋万磨さん

● 要援護者支援等、集団避難の必要性

訓練の受付時に「どこの町会ですか？」と聞いても町会名を知らない方が多く、特に町会に入っていない方はどの町会なのか、ほとんど把握していません。そこで、町会でなく住所表記で地域を10ブロックに区分し、予め、集合場所を決め、そこに旗をたて「一時立寄所」とするよう工夫しました。

また、自衛隊に訓練に参加していただいたり、独自の高津災害対応マップを作成したり、高津小学校と連携して土曜授業の一環と一緒に訓練を行ったり、工夫を重ねて訓練を行っています。

● 「備災」と「減災」

「防災」には「備災」と「減災」の2つの側面があると考えています。高津地域は上町断層の西側に隣接していて、地震の危険性が高い地域に住んでいるという危機感を自覚し、正しい情報を収集することが大切です。実際に災害が起きた時、自助による救助割合が圧倒的に多いため、訓練を経験しておくことで、ひとりでも多くの方が助かり、それが「減災」につながると考えています。また、災害時には、「水」と「情報」は必要不可欠なものです。「情報」は発電機の使用で得ることが可能ですが、水の確保が課題で、学校に井戸を掘るなどによる水の確保が有効だと考えています。

2. 助かる命は助ける

「南小学校避難所開設訓練」 御津地区地域活動協議会 役員 田村 俊和さん

● 物心両面の備えが大切

南小学校区の御津・大宝地域では、「助かる命は助ける」ために、物心両面の備えを行っています。物資の備蓄については、トランシーバーや乾電池、救急セットなどを毎年計画的に購入しています（当日は購入物資一覧表を配布）。また、正しい判断、迅速なアクション、近隣の協力が何よりも大切と考えています。

● 小学校と連携し、引き取り訓練を実施

小学校と連携して土曜事業の一環として訓練を実施しています。6年生には、大人と一緒に各役割に入り、訓練を実施することで、将来、実際の災害時が起こった際、実践力になってくれることを期待しています。また、訓練終了後に30分かけて、児童の引き取り訓練を行っています。少しずつ、先生、児童、PTAに意思統一ができ、慣れてきましたが、保護者の参加率が低いことが課題です。実際に災害が起こった際は、多くの人が動かないと機能しません。各役割の方が、しっかりとイメージを持って知っていることが重要で、これが「自主防災力」や「助かる命は助ける」につながると考えていて、自ら体制を作り訓練で機能できるようにしておくことが大切です。

3. できるだけ準備せずに行う実践的な避難所訓練

「災害時避難所実習」 北大江地域活動協議会 役員 三木 啓正さん

● 災害時避難所実習

北大江地域は、マンションに住む住民が大多数を占め、災害が起こった際、災害時避難所に人が集まらないのではないかと心配しています。しかし、災害時には、災害時避難所が区との唯一の連絡窓口になると考え、実際に災害が起こった際、どうなるのかやってみよう、みんなで対策を考えようという考えのもと、訓練を実施することとなりました。作成した地区防災計画にそって、訓練を行い、検証し、計画案を見直しています。

● ぶっつけ本番の訓練

訓練では、障がい者や外国人の方にも参加してもらい、たった今災害がおこったら、何ができるのかやってみることが基本的な考え方です。集まったメンバーで臨機応変に役割を決め、ピブスを手分けし、備蓄物資をとりあえず使ってみました。また、終了後には、互いに報告しあい、訓練結果をふりかえりしました。その他、企業と連携したり、フォーラムやイメージトレーニングを多数開催し、実際に災害が起こった時に備えています。今後は、さらに多数のマンションやビルにも参加してもらえるように声をかけていきたいと考えています。

4. マンションや企業と連携した訓練

「中大江小学校避難所開設訓練」 中大江地域活動協議会 会長 加藤 正二さん

● マンションとの連携

中大江地域では、マンションと企業の協力がなければ何もできないと考えています。町会長さんの協力を得ながら、全マンションにチラシを配布するなどの周知を行い、マンションでの災害時の課題に役立つ訓練メニューを実

施しました。一般社団法人マンション管理業協会の協賛のもと、停電になりエレベーターが止まってしまった時を想定して、階段を使った避難訓練やベランダの隔壁板突破訓練を行いました。また、受付では、町会別にのぼりを作成し、受付を実施するなど工夫しています。訓練の最後には、「命のカプセル」を配付し、防災をきっかけとしたふだんからの見守りにつなげています。

● 今年度の訓練へ向けて

小学校と連携し、子どもの引き渡しを地域として、どのようにお手伝いできるのか考えたり、今年度から6年生には、各パートにわかれて実際に戦力になってもらう訓練を実施する予定です。また、講堂には実際、何名が入ることができるのかなど、実際にやってみて、その都度見つかった課題を改善しながら、毎年訓練を実施していきたいと考えています。

5. 毎年のテーマを決めて新鮮な気持ちで訓練を実施

「南大江地域避難所開設・運営訓練」南大江地域活動協議会 会長 伊藤 弘一郎さん

● 毎年、場所とテーマを変えて実施

南大江地域では、地域の中に南大江小学校、大阪府立中央聴覚支援学校、東中学校の3つの災害時避難所があります。地域住民に3つの避難場所を知っていただくことと、去年と同様であれば今年は参加しなくてもよいのでは…と考え、参加してもらえなくなることを防ぎ、興味を持って訓練に参加してもらえるように毎年、場所とテーマを変えて訓練を実施しています。H25に南大江小学校で初めて訓練を実施し、H26は「要援護者支援」に重点をおいた訓練を大阪府立中央聴覚支援学校で実施しました。H27は、「南大江地域」だけの訓練から「地域を越えた連携へ」とのテーマで、東中学校で北大江、中大江と合同で実施しました。東中学校の生徒や大阪府立中央聴覚支援学校の生徒に参加してもらい、地域と一体となって、協力しあいながら、訓練を行うことができました。今年は、「避難所開設」から「避難所運営へ」とのテーマで、南大江小学校で実施しました。みんなで防災ということを考え、訓練を行い、人が人を助けることを実践していきたいと考えています。

6. 複数の地域が連携した訓練

「上町中学校避難所開設訓練」桃谷連合地域活動協議会 会長 原田 壽幸さん

● 上町中学校と東平地域、桃谷地域の3つで連携して訓練を実施

桃谷地域の災害時避難所は、上町中学校で、東平地域と同じ場所に避難することになっています。そのため、訓練の時から2つの地域で一緒に行っておくことが必要だと考え、連携して訓練を実施しています。また、災害はいつどこでおこるのか分からず、いざ災害が起こった際、大人は出勤していたり、外出していることも少なくありません。平日の日中は必ず学校にいる中学生が有力な戦力になると考え、今年から中学校と連携し、1年生～3年生の約300人に参加してもらいました。3年間訓練に参加してもらえば、しっかり身につけたおとなになってもらえると考えています。

● 実際の災害を想定してどのような訓練にしておくとか検討

事前にリストアップし、役割を決めていても、その人が無事で災害時避難所に来られるか分かりません。また、いつ災害が起こるか分かりません。実際の災害が起きた時には、集まった方をリストアップし、その場でリーダーや役割を決めていくことが必要で、情報はだれが見ても分かるように模造紙を貼り出して書き出すことが大切と考えています。実際に試行錯誤しながら体験してから、消防署からレクチャーしてもらうことで、より理解が深まると思います。

第2部 意見交換会

第1部で各地域から紹介頂いた事例に対して質問を募り、意見交換会を行いました。

- マンションに住んでいる新しい住民や町会に加入していない方に訓練に参加してもらうには、どのようにすれば良いですか？

これといった策はないのですが、町会長さんに協力していただいて、チラシを全戸配布していることは、参加するきっかけになっていると思います。また、マンションの理事会に出席させてもらう機会に、周知したことも、参加につながっていると思います。(中大江 加藤さん)

- 地域の中に災害時避難所が複数ありますが、どのように連絡を取りあえばよいのでしょうか？

災害時避難所の一つが本部になっていると、そこに人が集まってパニックになると思います。本部を別の場所に作り、各避難所には中心となるような人をおいて、無線で連絡を取り合おうと考えています。実際に災害が起こった時は、中央区以外の方も来られると思いますし、いかにパニックを防ぐかが重要なテーマだと思っています。(南大江 伊藤さん)

- 中央区では、民泊の問題もありますが、住民以外で、そこに滞在している方に対する災害時の対策はどのようにしますか？

備蓄品は、民泊の方など関係なく来られた方みんなに配るつもりです。早い者勝ちには、したくないと思っていて、各町会には、必ず食糧など配布できるようにしたいと考えています。(御津 田村さん)

中央区には、事業者向け帰宅困難者対策ハンドブックがあります。事業者に対して、災害発生時はむやみに動かず、安全な場所に留まることを従業員等に周知するように記載されていますが、情報は災害時避難所に集まります。区内のある企業に話をうかがうと、実際に災害が起こった際は、どうなるのか分からず、できるだけいろいろな可能性の対策をとるようにするとお聞きしています。中大江地域で行っているように、企業と防災についての意見交換の場を設け、いざと言うときの想定をし、企業にも訓練に参加してもらい、さまざまな選択肢をもっておいてもらうことも大切だと考えています。(まちセン)

- 外国人への避難の想定はどのように考えていますか？

黒門市場では、一日に多数の外国人観光客が来られます。実際、300名が定員の災害時避難所に観光客の方が来られても対応できません。Wi-Fi環境を整備し、情報を各外国語で配信できるようにしていくべきだと考えていますが、実際に避難所に来られた際には、臨機応変に対応します。(高津 山口さん)

- アンケートでのご意見

セミナー後のアンケートでは、「各地域とも、地域事情にあったテーマを決め、取り組まれている具体的な発表が勉強になりました」「たくさんヒントをいただきました」など、普段接することが少ない他地域のさまざまな取り組みや工夫を知るきっかけになったという感想をいただきました。

「まちセン」までご相談ください！

中間支援組織 中央区まちづくりセンターは、地活協（地域活動協議会）の活動のお手伝いをしています。

今回は避難所開設訓練をテーマにセミナーを企画しましたが、他のテーマでのセミナーなどのご希望があれば、お気軽にご相談ください。また、新たな事業の企画などは、セミナー当日も配布した「活動ヒント集」をご参考にしてください！

ご要望があれば「中央区まちづくりセンター」までお気軽にご相談ください。

この記録に関する内容、問合せは中央区まちづくりセンター 中央区役所6階（電話 /06-4708-8183）